

## 新しい出発にあたって 会長 矢野 弘典

新役員体制が発足し、不肖私が引き続き会長を仰せつかりました。責任の重さを痛感しています。私は皆さまと共に、次のような視点で諸課題に取り組みたいと考えています。

- ◆ 原点に立ち返る。今年はICの前身であるMRAが始まって、ちょうど80年という節目の年にあたります。これを機に、原点に立ち返り、歴史を学び直し、改めてその現代的意義を再確認しようではありませんか。
- ◆ 身近な所から始める。それは、一人ひとりの家庭や職場に他なりません。身の周りに平和を築く人にして初めて、世に平和をもたらすことができる、と私は思います。
- ◆ 信頼のネットワークを世界に広げる。一個人の掲げる灯は、小さな一隅を照らすだけかも知れません。しかし、これに多

くの人が連携して萬灯となれば、世界を照らす光となります。グローバル活動の強みを活かすのです。

- ◆ 公益法人としての役割を全うする。事業の執行、個人・企業会員サービス、情報公開、財政基盤の確立など、役員は心を一つにして取り組みます。皆さまには平素のご協力と合わせ、大切な対外活動への積極的な参画をお願いします。



## 専務理事の就任にあたって 副会長兼専務理事 足立 憲昭

会員の皆さま、平素は協会のためにご協力並びにご支援を賜り、有難うございます。

先日の会員総会において、新役員体制が決まり専務理事兼副会長という当協会の重責を拝命いたしました。歴代の専務理事は、皆さま、国際経験が豊かで、グローバルコミュニケーションに長けた方々でした。特に前任の田中専務理事は、長年に亘って海外勤務の経験がありグローバルコミュニケーションが得意な方で、就任から2年間は、いつも誠心誠意全力で取り組まれ、多くの改革を実践されました。心より御礼申し上げます。

私は、これから2年間、苦手なグローバルコミュニケーションを学ぶ一方、ファシリテーターとして、理事・監事の皆様の頭脳をフル活用すること、会員の皆様にもスキルをご登録いただき、適材適所の支援をお願いしていく、そのような仕組みを構築したい

と思います。

また、新しい世代に引き継ぐためにも協会運営の透明性を高めたいと思います。さらに遅れていたIT活用、外部リソース（資源）の活用による管理部門の効率化、一部の年配の方々にはご不便をおかけしますが、メールの活用、ホームページによるコミュニケーション導入、理事会の説明にパワーポイント導入などを進めて、紙の使用削減とスピード化を図ってまいります。

どうぞよろしく願いいたします。



## 第7回定時会員総会報告

3月11日(日)13:30より第7回定時総会が協会事務所で開催された。正会員数133名のところ、議決権行使書による参加者63名、総会出席者30名、総参加者数93名で総会は有効に成立した。

第1号議案「第6期事業報告書の報告並びに貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書並びに財産目録承認の件」、第2号議案「理事及び監事選任の件」は提案通り承認された。また、「第7期(平成30年1月1日～12月31日)事業計画書、正味財産増減計算算書の報告」がなされて総会は終了し、その後懇親会が開催された。

なお、総会後の臨時理事会にて新たに、名誉会長に橋本徹氏、会長に矢野弘典氏、副会長兼専務理事に足立憲昭氏、顧問として従来の顧問のほか、新しく鈴木洋子氏が就任された。新理事、監事は以下のとおり。

- 名誉会長：橋本 徹
- 会 長：矢野 弘典
- 副会長兼専務理事：足立 憲昭
- 理 事：石川 勝一、大隈 尚子、兼松 恵、木村 清隆、成 豪哲、田口 ヤス子、田中 章博、藤田 幸久
- 監 事：佐谷 隆一、松井 保幸

### “The Future We Want”に参加して 山田 真輝

2年ぶりのアジアプラトリーは、家族の様にみんなが暖かく迎えてくれた。ここでの時間はいつも、自分の大きな転換点となる。今回のAPYCもそうだったように。

まず、APYCとはアジアの若者が総勢120人集まり、9日間静かな時間などのIofCプログラムや、ワークショップ、社会活動家の公演、文化交流を通してアジアと世界の未来を考え、各国の若者に友情の橋がけをするプログラムだ。

今回のAPYCは、世界各国でIofCに関わる若者の出会いが、大きな価値となった。半世紀前に比べたら圧倒的に減少しているIofCの活動と人々のエネルギーについて、意見を交換したりもした。

その中でも同世代で、デンマークのIofCでフルタイムで働く人の話は衝撃的だった。彼女は幼い頃、内戦が激化したアフガンから

脱出し、デンマークに難民として移り住んだ経緯を持つ。現在は、世界中のIofCプログラムをサポートしながら、アフガンでIofCの活動を行う拠点を築こうと計画している。『混乱が続くアフガンの社会秩序と人々の生活の平和を取り戻すために、IofCの哲学とプログラムが必要なんだ』と大きな期待を抱いていた。祖国で苦しむ人々のために、人生をかける同世代の姿はとても美しく勇敢に見え、人生観を変える程多くの影響を与えられた。

それ以外にも、参加者の情熱とライフストーリーは毎度インパクトを与えるものだった。改めて社会におけるIofCの重要性を認識し、さらに世界各国にIofCファミリーを得るかけがえのない機会となったのである。



## 第7回2018 Caux Initiative for Business 国際会議

Best Practices in Sustainability for a Turbulent Global Economy

■日時：2018年2月5日(月)～8日(木) ■場所：インド、パンチガニー

■参加国：アジア、アフリカ、欧州他 計40カ国 ■参加人数：約150名 ■日本の参加者：16名

### 国際IC日本協会 専務理事 足立 憲昭

この度、国際IC日本協会のCIB派遣メンバーのチームリーダーとして会議に参加しました。今回のインド訪問は、長い距離を飛行機とバスを乗り継いで移動したため、体力的にも大変なエネルギーを求められました。しかしながら、日本から中国大陸を横断し、ヒマラヤ山脈を眼下に見下ろしながらたどり着いた、インドのムンバイ空港は想定以上の活気(熱気)に満ち溢れていました。

インドでは感動の連続でした、その中から3つを取り上げます。本当に意義ある旅行になりましたが、これはCRT事務局様のプログラム構築力と熱心なファシリテーションによって実現できた旅です。CRT事務局様に心から感謝します。

1. 西インドのムンバイが、アジア、ヨーロッパ、中東、アフリカ等のそれぞれの文化が出会う場所であり、特に、CIB会議でのアフリカメンバーの意見主張の積極性に感動しました。
2. 同部屋の木村理事と朝早く登ったデカン高原の夜明け、日本チームと散策したときであった野生動物、市場での日用雑貨と食料品、パンチガニーで学ぶ子供たちの元気さに感動しました。
3. グランパリーにおける教室(特にミシン操作技術、衛生教育)の状況をスライドで見て、「自立する」ために、下水道・上水道・ゴミ処理を整備し、「手洗い」の簡易設備(ペットボトル活用)を設置して、歌による石鹸を使った手洗いの指導に感動しました。

### インドCIB会議に参加して 佐々木 淳

#### 【インドという国】

初インド。最大都市ムンバイは人口1800万人。とにかく人が多い。テレビで見たことのある満員電車が走っている。色々な人たちが一緒に暮らしている。小さなことにいちいち腹を立てている普通の自分がちっぽけに感じる。同時に、インド社会に潜む課題の一部も垣間見た気がした。

#### 【CIBへの参加】

CRTとICが、同じ事務所で活動していた頃、私は学生だった。ICの活動に参加しつつ、CRTの活動のお手伝いもしていた。今、このことを、「インターン」と言うらしい。いつしかビジネスのというもののあり方を考えるようになった。

今回、自身も身を置くビジネスの世界を俯瞰して見る機会を定期的に行きたいと思い、参加を決意した。

#### 【世界のビジネスマンとお父さん】

日本も、インドも、世界も同じ。お父さんという人種は、家であまり仕事の話をしならしい。私は少しショックを受けた。家族に堂々と話ができること、これが正しいビジネスの基準となるのだ。



#### 【MRA/ICの理念をビジネスにあてはめるには】

ICって何？質問してみた。その答えは「ない」。これが答え。松下幸之助の「ダム式経営」の話を思い出した。「～私もよう知りませんのや。～強く願うことですわ。」自分はこうありたい、という姿を常に思い、静かな時間を持って、その日その日を少しずつ変えていく。そういうことか。

#### 【IC/MRAは天国か、オアシスか】

同世代の仲間の話。ICも、インドでのインターンも、いわば天国だ。でも実世界で、今の時代を生き、自分の正しいと思うことをするためには、それが好むと好まざるとを問わず、それなりの地位とお金がある。バランスをとるのは、なかなか難しい。



## 第39回 国際フォーラム

第39回国際フォーラムが2017年11月25日(土)～26日(日)、テーマを「はじめの一歩」サブテーマを「わたしが変わると世界が変わる」のもとに開催され、ノルウェーのイエンツ・ウイルヘルムセン氏、カミラ・ネルソン氏、台湾のリュー・レンジョウ氏、他、海外の参加者と共に、78名が集いICの考え方や世界情勢について学ぶ機会を持ちました。

第40回となります本年のIC国際フォーラムは、11月17日(土)～18日(日) 於国際文化会館を予定しております。是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。



## 2017 基調講演：カミラ・ネルソン氏（ノルウェー）の言葉をご紹介します

今回初来日、芸術家の夫との間の3人の息子の母で高校教師。週の半分は高校で働き、残りはノルウェーの唯一のICの職員として働く。欧州連絡調整委員会の委員で、インターナショナルIofC評議委員会の委員も務める。ICが今日の世界に提示していることが、大いに実質的に価値があることを、20年間教師を続けて来た中で確信を持った。学校の職場で、人々とともに人生を分かち合い寄り添うことが、私のICの生き方のベストを尽くす場となっている。

ICとは何かは、複雑なことではなく実にシンプルで、静かに心の奥の声に耳を傾ける時間を持つことを実践することです。人類の歴史でも、静かに心の声を聞くということほど重要なことはありません。

今日のヨーロッパには緊迫感が戻ってきている。職場での勢力が分断され、難民問題、EU危機、経済危機、特に南ヨーロッパに多い青年たちの失業。貧富の差。ナショナリズムの高まり。ヨーロッパの東西間の戦争の兆し。ヨーロッパを取り囲む要塞の壁ができつつある現状。インターナショナル



EU危機、経済危機、特に南ヨーロッパに多い青年たちの失業。貧富の差。ナショナリズムの高まり。ヨーロッパの東西間の戦争の兆し。ヨーロッパを取り囲む要塞の壁ができつつある現状。インターナショナル

EU危機、経済危機、特に南ヨーロッパに多い青年たちの失業。貧富の差。ナショナリズムの高まり。ヨーロッパの東西間の戦争の兆し。ヨーロッパを取り囲む要塞の壁ができつつある現状。インターナショナル

IC評議委員会では、2年前にこれからかの活動の戦略として幾つかの優先事項を決めた。全ての極端主義の根本にある問題に取り組み、その原因を明らかにすることが大切です。

中国のことわざで、IofCでよく言われていることの「指をさすと、3本の指が自分を指している。」と、IofCの最も重要な道具となっていると思います。誰もが相手が変わることを望んでいます。私の主人、ICのチームメイト、職場の同僚。

しかし、自分を指している3本の指からこそ、自分の置かれている状況の解答を見出すのです。

そこで、皆さんが皆さん自身に問いかけてみて下さい。

日本で何が起こるべきでしょうか？

そのために私は何ができるでしょうか？

そのために私は誰と一緒に行動できるでしょうか？

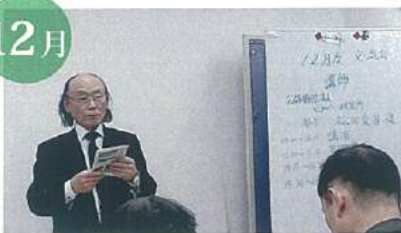
それを成し遂げるために、私の何が変わる必要がありますか？



難日のイエンツさんと長女カミラさん  
(11/28 羽田空港)

## 交流会開催報告

12月



2017.12月度(12月17日)

公益財団法人モラロジー研究所参与松田貞男氏をお迎えし、人間性・道徳性を育てる研究・教育をどのように広めていращやるか、心豊かで平和な世界の実現をめざす取組をテーマにお話いただきました。

1月



2018.1月度(1月21日)

富士箱根ゲストハウス代表、VISIT JAPAN 大使、当協会会員高橋正美氏をお迎えしました。日本が観光立国になる遙か昔の1984年「富士箱根ゲストハウス」をオープン。現在までに75カ国から15万人を超える外国人旅行者を受け入れています。箱根の小さな宿にリピーター続出の訳とは、「富士箱根ゲストハウスの外国人宿泊客はなぜリピーターになるのか？」

2月



2018.2月度(2月18日)

当協会顧問の高橋衛氏をお迎えしました。「世界8カ国(独・仏・中・米・伯・欄・葡・白・日)に暮らして見てわかったこと」をテーマに、各国の様々な形のけん玉の実演も交え豊富な経験をユーモアたっぷりにお話いただきました。

## Asia Plateau 50周年記念大会に参加して

### インド再々訪 米山正博・温子

2018年1月インド・パンチガニーで開催されたAsia Plateauの50周年記念大会に参加しました。

記念大会の標語は「Celebrating Differences, Melting Divisions」で、会期は1月17日から21日までの5日間でした。この大会には40か国から約300人が参加しました。アジア、オセアニア、中南米、アフリカ、ヨーロッパから世界の人々が集いました。



ラジモハン・ガンジー氏と  
ニルジャ・チャウドリー女史

Asia Plateauは1968年に設立されましたが、その創設に携わったRajmohan Gandhi氏、David Young氏らをはじめ創設当初からAsia Plateauの運営に関わった多くの人々が参加しました。

私達夫婦は妻温子が1966年に建設前のパンチガニーを訪れ、次に正博が1970年に訪れたのを皮切りに、1975年には2歳になる長男を連れて再訪し、以来度々Asia Plateauを訪れました。

2012年1月に、民主主義の発展と確立を協議する「Making Democracy Real」にも夫婦で参加しました。この民主主義に関する会議にはたった二人だけの日本人でしたが、今回の50周年記念大会にはインターンの方2名と大人3名の合計5名の日本人が参加し、日本とAsia Plateauの絆を確かめ合うことが出来ました。

50周年記念大会では、IofC(MRA)の紛争解決への努力、北東インド地方の平和達成や、Asia Plateauで実施されてきた数々のプログラム、例えば、「Leadership Program」、「Education Today Society Tomorrow」等について、その歴史や成功の秘訣が議論され、それらは参加者の心に残るものでした。

今回の大会では、52年ぶりに再会できた友人もおり、96歳でもかくしゃくとして参加した創設者もおり、お互いに健康でいられることの幸せをかみしめた大会でもありました。

2028年には60周年記念大会が開催されますので、今回参加した全員が10年後の次回大会にも参加することを約束しあった記念の大会でした。

## インドインターンシップ報告

### インド IC センターでのインターンシップに参加して

#### 参加した経緯と目的

私は普段は大学職員として働いています。自己研鑽のために休職ができる制度を活用し、2017年9月より約半年間、インターンシップに参加させてもらえることになりました。ICとの出会いは、2012年に日本で開催されたAPYCに参加したことです。その時、リーダーシップとは、ムーブメントを起こすとかいうことでなく、今この瞬間にできるアクションをするということ、それが自分からスタートするチェンジである、という考え方にinspireされ、自分の働き方や生き方が変わっていきました。そしてinspireされるだけでなく、他者にinspiringな経験を与えられる存在になりたい、と思う気持ちが強くなっていきました。そうした人間に近づく学びを得ることが、インターンシップに参加した目的でした。

#### インターンシップでの体験、学び

多くの体験、学びを全て書ききれないので、インターンシップならではの学びに絞りますと、それは、大学生やビジネスパーソンに向けたinner governanceなどのセッションや、ファミリーグループのホストを担当させてもらったことです。効果的にメッセージを伝える工夫、準備、その場で今一番必要なことを読み取ること、など、inspiringかつ心温かい「場づくり」の仕方を、経験を持って学ぶことができました。

### インドインターンシップに参加して 大橋 健太 京大生(2018年3月卒業)

半年間のAPでの体験を通じて「共感能力」は自分にとっての一つの課題であると強く感じるようになりました。今回のインターンシップには自分を含めて11人が参加しており、9月にプログラムが開始して直にストーリーシェアリングをする機会がインターン生それぞれに与えられました。他人の人生ストーリーをみんなで聞くという機会はこれまでありませんでしたので、どのような空間でどんな話するのか全く見当もつきませんでした。しかしいろんな人の話を聞いていくにつれて、彼らはこれまでに自分が経験や想像さえもしたことのないことを経た上で、このインターンシップに参加しているということが明らかになっていきました。驚いたのはそれぞれが(正しい表現かどうか分かりませんが)ショッキングな過去を持っていたことです。紛争や内戦であったり、家族の自殺、性的虐待などそれまではニュースでしか聞いたことがなく、正直耳を疑うような話を数多く聞

### 山本 愛 立命館大学職員

これから日本で…

政府官僚、大学生、農村の人々、ビジネスパーソンなど、様々なプログラム参加者と交流する中で、インナーリスニング、ストーリーシェアリングなどから、どんな人も癒しとエンパワメントを受け取ることができるかと確信しました。今後の私の目標は、1)自分の地域でシェアリング&リスニングサークルをつくること、2) Creator of Peace (ICプログラムの一つ)のファシリテータートレーニングを受け、日本でも試してみること、3)学校訪問プログラムの海外メンバーとできる活動をする、です。インドでは年間通してプログラムが実施され、20代~30代のボランティアも多く、活動が活発なことを羨ましいと思う気持ちもありましたが、今年1月に開催された、各国のIC代表者が参加したAgni Pathというコンファレンスで、各国それぞれに葛藤があることを知りました。私は大分在住で、なかなか日本のICの皆さんと普段交流するのが難しいのですが、今ここでできることは何かをいつも自分に問いかけ、ICの考え方を通じて人に、仕事に、生活にコミットしていきたいと考えています。時には心細く感じることもありますので、お会いできるときには、皆さんとのシェアリング、リスニングをとおしてパワーをいただきたいと思っております。



スレッシュ カトリ氏(フィジー/インド)と米山正博・温子ご夫妻、山本愛さん、大橋健太さん、兼松理事

きました。平和な環境のもとぬくぬくと育てられた自分にはとても彼らの痛みや苦しみを理解するなんて無理だと感じ、悶々とすることもありましたが、しかし「たまたま出会った11人の人生でさえもこんなに多岐に渡っているのだから、これまでに出会った友人などの人生にも様々な過去があるはずで、それを勝手にみんなも自分と同じように平和で問題のない人生を送っていると思込んでいた」ことに、あるとき気づくことができ、その後はせめて話を聞くことだけは心がけました。半年間のプログラムに参加しただけで、急に共感できるようになったわけではありませんが、自分に欠けていたものが何かなかったことは大きな収穫だったと思います。



会員の発表を真剣に聞きいる参加者

長年、九州での国際IC活動を率いてくださった井原伸允先生は本年1月10日ご逝去になりました。昨年4月より井原先生自ら「もう僕は指導できないよ」と繰り返され私達も覚悟していましたが、現実になった今、空虚感に包まれています。その状況で実施した3月3日・4日の国際IC九州サークル勉強会でした。テーマは「日本と朝鮮半島」です。月例会で研究の進捗状況を報告し合い進めましたが、井原先生からのより高みを目指すための示唆がいただけません。もう、頼れませんでした。「その内容は今回のテーマに合わないのではないか」「参加者の中に朝鮮の方がいる」「在日の人に直接話を聞きたいが大丈夫だろうか」などと右往左往し、年末を迎える頃、各自、詳しい人へ聞いてみようという裾野が広がり「南北朝鮮の現状を知るために他にも本がある」「これは事実だろうか」と、いつもなら井原先生から発せられる言

葉を仲間同士互いに投げかけ合いました。結果はそれぞれ異なった視点から朝鮮をみつめることとなり、各々課題を掴み、次のテーマは何にしよう！と前向きな意見が出るほどでした。

戦争、捕虜、中国、中東、朝鮮…世界の情勢を正しく知ろう！と知識や情報を集め理解に努めています。この学びは私たちの物事の捉え方を変え、悲惨な事件を恐ろしい、可哀そう、に終始するのではなく、同じ社会に生きる人間の一人として自分の生き方を問う機会となっています。昨年扱った「パラダイス ナウ」のハニ・アブ・アサド監督は「主人公のテロリストに感情移入できればモノの見方は変わる」と訴えていました。

井原先生は、私たちが生きる上で受けている様々な恩恵を理解し、感謝を実践する努力が必要。それが、自分が変わることにつながる！とICの理念を咀嚼くださいました。私たちは今後も九州でのIC活動を続けて参ります。



矢野会長とチマチョゴリ（朝鮮の民族衣装）を着た姫君（会員）たち（3/3懇親会）

## 【お便り紹介】▶▶ 岡本あんなさん

先日、会員ご家族の岡本あんなさんから嬉しいお便りが届きましたので、ご活躍の内容を抜粋して皆様にご紹介します。

国際IC日本協会のみなさま

お世話になっております。岡本あんなです。

私は小学3年の冬に相馬雪香さんの講演会に伺ってからIofCとも出会いました。これまでに多くの出会い、経験、思い出を得てきました。私の根幹を築いてくれたIofCでの学びには本当に感謝しております。恵まれていたと感じております。

私は昨年夏にIofCとは関係のない国際交流プログラムに参加しました。そのプログラムは韓国で開かれ、33か国から80人が集まったのですが、その時に「若者の交流をどのように国家の友好関係構築に生かすか」というテーマで自分の経験をプレゼンしました。80人のうち発表者は6人いたのですが、その6人の中の一人として、どのように自分の生活や人生と向きあってきたのか、つまりIofCでのQuiet TimeやSharingについて説明し、実際に短い時間で体験してもらいました。多くの参加者から一番いいプレゼン内容だったとほめていただきました。IofCとは何ら関係のない場所で、Quiet TimeやSharingが称賛されたことで、IofCの必要性を強く感じました。私は既にあらゆることをIofCから教わった者として、今後も引き続き社会で広く知っていただけるよう努めていくつもりです。

2018. 3. 5



Message



国際理解と心の教育を併せて提供する学校訪問プログラムを再開します。インドのICセンターでのリーダーシップ養成プログラムを受けた、インドネシア・スリランカ・チベット(インド在住)・レバノンからの4名の青年を迎え、6月15日から1ヶ月の間に東京・福岡県・佐賀県・静岡県・つくば市の小学校から大学まで20校余りを訪ねる予定です。本年も北九州市と静岡県の教育委員会の支援を頂く予定であり、又、各地でIC協会の会員の皆様との連携を図って行きます。加えて、インドのICセンターで共にインターンシップを体験し、今回来日する青年達とも親しい日本の若い方々も共に運営に当たってくれることになっています。



## 訃報

元イギリスIofC(旧MRA)協会理事長ジェフリー・クレイグ氏が、2018年3月17日(現地時間)に73歳で亡くなりました。

クレイグ氏は、元国際MRA(現IC)日本協会故高瀬正二会長、故相馬雪香副会長、故住友義輝副会長の招聘に応え、1981年から1986年まで4年半の長きにわたりご家族で日本のMRA(IC)と共に活躍されました。その間、日本とアジアにおけるMRA(IC)活動の支援はもとより、日本のよき友人の一人として世界との架け橋の役割を果たされました。

去る4月6日、故郷のエジンバラでしめやかに執り行われたご葬儀には、クレイグ氏を悼む世界各国の友人から氏の功績に対して深い敬意と感謝の意が表される中、日本の友人の方々からのクレイグ家への感謝の供花も飾っていただきましたことをご報告申し上げます。

(文責 兼松 恵)

## 書籍紹介

矢野会長の新著『論語とリーダーシップ「信望」の秘訣』(生産性出版)が発刊されました。相当数の寄贈を頂きましたので、事務局にて貸出をいたします。



## 年間行事

### 2018年 行事

6月15日-7月15日 学校訪問メンバー来日  
6月28日-8月13日 スイス・コー国際IofCフォーラム



<http://www.caux.ch/programme>

8月21日-8月25日 ソウル 日中韓青年フォーラム  
11月17日(土)・18日(日) 国際ICフォーラム  
国際文化会館 於(予定)

### International IofCのニュースへのアクセスは

<https://www.iofc.org/> 他、

### Initiatives of Change on Facebook, YouTube and Twitter

<http://www.facebook.com/initiativesofchange>

<http://www.youtube.com/initiativesofchange>

<https://twitter.com/#!/IofCIntl>

## 入会のお願

当協会は、皆さまからの会費及び寄付金により運営されています。世界の平和につながる青少年の育成や国際交流活動のため、是非ご入会の上、ご支援ください。

当協会は海外のIofCと連携して活動する公益社団法人です。

	会費年額
個人会員	6,000円 (議決権を行使できます)
個人賛助会員	3,000円以上
法人賛助会員	50,000円 (一口)

## 編集後記

IC ニュース 22号は、矢野会長の新たな取り組みへの決意表明、ならびに足立新専務理事の新任挨拶に併せ、新役員名を紹介しています。この他インド特集では若いメンバーの方々の活動報告等を、また2018学校訪問プログラム告知では4名の招聘メンバーを紹介しています。今後とも皆さまのお声を中心に発信して参りますのでご寄稿いただければ幸いです。